



# 神経科学ニュース

Neuroscience News · Japan Neuroscience Society

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9(財)日本学会事務センター内  
日本神経科学学会

TEL: 03-5814-5810 FAX: 03-5814-5825

## 第63回日本神経科学学会理事会報告

日時、2003年7月22日(火)14時30分 18時、場所、名古屋国際会議場231号室

出席

小幡 邦彦 会長、津本 忠治 庶務理事、水野 昇 会計理事、村上 富士夫 広報担当理事(第27回大会大会長)、御子柴 克彦 理事、三品 昌美 理事、丹治 順 理事、西野 仁雄 理事(第26回大会大会長)、伊佐 正 理事、大隅 典子 理事、川人 光男 理事

欠席

岡野 栄之 理事、金澤 一郎 理事、柴崎 浩 理事、辻 省次 理事、遠山 正彌 理事、中西 重忠 理事、廣川 信隆 理事、宮下 保司 理事(第28回大会大会長)

報告事項:

1. 庶務報告(津本庶務理事):会員構成の状況を報告(資料1-1、新入会員名は資料1-2参照)。会員総数は4200名を越えたが、今後さらに増えることを期待している。
2. 会計報告(水野会計理事):2003年度の中間会計報告がなされた(資料2)。
3. 会報編集報告(村上会報編集理事)会報編集は順調に推移している。
4. 委員会報告 丹治動物実験委員会委員長よりサル譲渡に関する問題に関して説明があった。また、文部科学省の「ナショナルバイオリソース計画」にタッチされている伊佐理事より追加説明があった。学会

### 目 次

第63回日本神経科学学会理事会報告	1
平成15年度日本神経科学学会総会報告	11
第26回日本神経科学大会のご報告	11
第27回日本神経科学大会(Neuro2004)のご案内第1報	12
エモーション・ブレイン情動の脳科学ジョセフ・ルドゥー著	13
シンポジウム・研究会のお知らせ	14
研究助成	18
公募	21
その他	22
編集後記	22

として動物実験委員会の活動を引き続きバックアップすることが確認された。

5. 7月23日より開催の第26回大会の状況について西野仁雄大会長より報告があった(本ニュースの西野大会長よりの報告記事参照)。

6. 第27回大会の準備状況に関して村上富士夫大会長より報告があった(本ニュースの村上大会長よりの報告記事参照)。

7. Neuroscience Research(NSR)の編集状況等について津本編集主幹より以下の報告があった。

1) 本年初めより電子投稿が可能となった。そのためもあり、海外よりの投稿が特に増加している。本年6月の段階で、郵便による投稿も残っているが、電子投稿は全体の7、8割に達している。

2) 採択率は2001年は約60%であったが、投稿数の増加や質のさらなる向上を目指す編集委員会の方針もあり、本年は約50%になると予測される。

3) 2003年度のNSRの会計は科研費補助金を計画どおりいただいたため順調であるが、冊子体の購読者数減少という問題が顕著となり、その克服に努力している。

4) 現在の編集委員の任期は2003年8月末で終了するが、前回の理事会で再任が決定された津本編集主幹より新編集体制の説明があった(新編集体制に関してはNSR編集オフィスのホームページ <http://nsr.med.osaka-u.ac.jp/> 参照)。

8. 各種学術集会等に対して協賛・後援を行った旨津本庶務理事より報告があった。

#### 資料1(2)

新会員

正会員

パネル1、分子・細胞神経科学(63名)

浅田 穰 日本医科大学 薬理学教室

安達 直樹 大阪大学 大学院医学研究科 神経統合機能分野

有田 和恵 埼玉医科大学 生理学教室

池田 哲朗 理化学研究所 脳科学総合研究センター

池田 弘 福井大学 工学部知能システム工学科

石川 良樹 群馬大学 医学部 薬理

井上 浩一 浜松医科大学 生理学第一講座

井上 浩太郎 三菱化学生命科学研究所

今居 譲 理化学研究所 脳科学総合研究センター 運動系神経変性研究チーム

植村 健 東京大学 医学系研究科 薬理学・分子神経生物学分野

榎原 智美 明治鍼灸大学解剖学教室

遠藤 啓太 理化学研究所発生・再生科学総合研究センター神経回路発生研究チーム

大和田 祐二 東北大学 大学院医学系研究科 細胞組織学分野

小山 文隆 理化学研究所 脳科学総合研究センター 構造神経病理研究チーム

片岡 宏隆	東京大学 大学院医学系研究科機能生物学専攻分子神経生物学教室	西住 裕文	東京大学 大学院理学系研究科 生物化学専攻
角川 裕造	藤田保健衛生大学総合医科学研究所	西田 明弘	(財)大阪バイオサイエンス研究所
栗生 俊彦	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 細胞相関機構学	林 弘之	神奈川歯科大学 口腔組織学講座
郷 正博	熊本大学大学院医学研究科神経分化学	原 洋子	国立精神・神経センター神経研究所 神経研究部 疾病研究第4部
小早川 高	東京大学 理学系研究科 生物化学専攻	久恒 智博	理化学研究所 脳科学研究総合センター 発生神経生物研究チーム
小林 陽子	筑波大学 応用生物科学系	久野 正	滋賀医科大学 分子神経科学研究センター
櫻井 孝信	大正製薬株式会社 安全性研究室	氷見 敏行	東京医科歯科大学 分子細胞機能学
佐藤 明	理化学研究所 脳科学総合研究センター 分子神経形成研究チーム	藤井 秀太	国立精神・神経センター神経研究所 微細構造研究部
澤本 和延	大阪大学大学院医学系研究科 機能形態学	松田 純子	徳島大学 医学部 発生発達医学講座 小児医学分野
末次 志郎	東京大学 医科学研究所 腫瘍分子医学分野	松田 尚人	東京大学大学院医学系研究科 機能生物学専攻 分子神経生物学分野
杉谷 善信	理化学研究所 脳科学総合研究センター 細胞培養技術開発チーム	三井 健一	理化学研究所脳科学総合研究センター
杉本 是明	東北大学 大学院情報科学研究科 情報生物学分野	武藤 哲司	理化学研究所脳科学総合研究センター 細胞培養技術開発チーム
鈴木 俊顕	(財)東京都医学研究機構 東京都臨床医学総合研究所	本山 由美子	理化学研究所 脳科学総合研究センター
外角 直樹	久留米大学 医学部 生理学第一講座	山下 俊英	大阪大学大学院医学系研究科 ポストゲノム疾患解析学講座
高永 博実	北里大学 薬学部 公衆衛生	山中 章弘	筑波大学基礎医学系 薬理
高野 敦子	大阪大学蛋白質研究所代謝部門	山本 登志子	徳島大学 医学部 情報統合医学講座 形態情報医学分野
高畑 和恵	株式会社藤本創薬研究所	横手 秀行	和歌山県立医科大学 先端医学研究所分子医学研究部
竹内 有輔	東北大学 大学院薬学研究科	劉 テイテイ	岡崎国立共同研究機構生理学研究所
竹島 多賀夫	鳥取大学医学部脳神経内科	AGUAN	KRIPAMOY 理化学研究所脳科学総合研究センター神経遺伝研究チーム
武田 大輔	関西鍼灸短期大学 生理学教室	Ebrahim Shukkur ABDUL	理化学研究所脳科学総合研究センター
立山 充博	東京医科歯科大学 機能協関システム医学	Guillaud Laurent	東京大学大学院医学系研究科 細胞生物学
谷 知己	東京都臨床医学総合研究所	パネル2、	システム神経科学 (33名)
田丸 文信	埼玉医科大学 生理学教室	相原 威	玉川大学工学部
坪井 昭夫	東京大学 大学院理学系研究科 生物化学専攻	石橋 仁	九州大学 大学院医学研究院 細胞シス
中曾 一裕	鳥取大学医学部脳神経内科		
中別府 雄作	生体防御医学研究所 個体機能制御学部門 脳機能制御学分野		
中村 岳史	大阪大学微生物病研究所腫瘍ウイルス分野		
那須 史男	徳島大学 歯学部口腔解剖学第2講座		

	テム生理	Ji-HOON KIM East-West Med.Inst., Kyung-Hee Univ.
伊藤 哲史	福井医科大学 解剖学講座	
稲葉 朗子	ポバース記念病院	RAJAGOPALAN UMA MAHESNARI 理化学研究所 脳科学総合研究センター
乾 幸二	岡崎国立共同研究機構生理学研究所 統合生理研究施設	Sergey Kurkin 北海道大学 大学院医学研究科 統合生理学講座
岩田 一樹	東北大学 未来科学技術共同研究センター	
大平 英樹	名古屋大学大学院 環境医学研究所	パネル3、臨床・病態神経科学 (15名)
小田 伸午	京都大学 大学院人間・環境学研究科	新井 信隆 東京都医学研究機構東京都神経科学 総合研究所 臨床神経病理研究部門
片井 聡	京都大学 霊長類研究所 行動神経研究部 部門行動発現分野	安藤 正裕 徳島大学 医学部 耳鼻咽喉科学教室
片山 義三	薬物安全性試験センター 薬理研究所	梅垣 宏行 名古屋大学大学院医学研究科老年科学
加藤 美幸	愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所	尾内 康臣 浜松医療センター 先端医療技術センター
川島 貴弘	独立行政法人産業技術総合研究所	久保田 哲夫 名古屋大学医学部小児科
北市 清幸	名古屋大学 大学院医学系研究科 医療技術学専攻	瀧 靖之 東北大学 加齢医学研究所 機能画像 医学研究分野
佐々 祐子	東北大学 大学院 国際文化研究科	田中 章浩 国立身体障害者リハビリテーション センター研究所
田中 宏喜	大阪大学 大学院 生命機能研究科脳 神経工学講座	千葉 陽一 愛知県心身障害者コロニー発達障害 研究所 病理学部
塚元 鉄二	GE 横河メディカルシステム株式会社	中野 今治 自治医科大学 神経内科
樋田 一徳	徳島大学 医学部 情報統合医学講座 形態情報医学分野	橋本 亮太 国立精神・神経センター神経研究所 疾病研究第三部
徳丸 治	東京女子医科大学 第一生理学教室	福田 健太郎 慶應義塾大学 医学部整形外科学教室
富田 美穂子	東京女子医科大学 医学部第一生理	藤田 政隆 理化学研究所脳科学総合研究セン ター 行動遺伝技術開発チーム
中村 加枝	Lab. of Sensorimotor Res., Nat'l Eye Inst., NIH	増淵 映子 福島県立医科大学 看護学部 環境・ 保健学領域
中村 孝文	岡山県立大学保健福祉学部保健福祉 学科	南 亜紀子 株式会社 藤本創薬研究所
中村 靖夫	秋田大学 医学部 機能制御医学講座 器官制御学分野	吉村 昌和 丸石製薬株式会社研究開発本部 中 央研究所 開発研究部二課
成田 和巳	福井医科大学第二生理	学生会員
西 孝子	専修大学 自然科学研究所	パネル1、分子・細胞神経科学(102名)
弘津 俊輔	東京工業大学	荒川 芳輝 京都大学大学院 医学研究科 神経細胞 薬理学
水澤 郁文	福島県立医科大学医学部法医学講座	荒木 陽一 北海道大学 大学院 薬学研究科神 経科学分野
皆川 泰代	独立行政法人国立国語研究所	池田 亮 東京慈恵会医科大学 神経科学研究 部神経生理学
村井 恵良	北海道大学 大学院歯学研究科 口腔機能学講座(旧口腔生理)	
茂木 一孝	横浜市立大学医学部第二生理学	
安田 恵子	富山医科薬科大学医学部耳鼻咽喉科	

石橋 賢	富山大学大学院 理工学研究科		年科学
井田 瑞穂	奈良女子大学理学部 神経発生研究室	呉 海燕	岡山大学大学院 医歯学総合研究科 細胞生理
伊藤 圭祐	理学研究科 生命理学神経発生研究グループ	高坂 洋史	東京大学大学院 理学系研究科 物理学専攻
伊藤 亮	京都大学 大学院薬学研究科 薬品作用解析学分野	古賀 仁士	九州大学 大学院医学研究院 細胞シグナル生理
岩井 博正	創価大学 工学部 生物工学科	小林 千恵	大阪大学大学院 歯学研究科 総合機能口腔科学専攻 顎口腔病因病態制御学
上野 朋行	名古屋大学環境医学研究所 神経性調節	坂本 多穂	名古屋市立大学大学院 薬学研究科 細胞分子薬効解析学
黄 穎泉	東京大学 大学院医学系研究科 分子細胞生物学専攻 細胞生物学・解剖学	佐々木 豪	奈良先端科学技術大学院大学 論理生命科学分野
浦川 将	名古屋市立大学 大学院医学研究科 脳神経生理学	定方 哲史	理化学研究所 脳科学総合研究センター 分子神経形成研究チーム
遠藤 玄宗	名古屋大学大学院 理学研究科 生命理学専攻	白幡 恵美	山形大学 医学部 小児科学講座
生沼 泉	京都大学 大学院 生命科学研究科 生体システム学分野	新谷 光輝	福山大学 薬学部 薬理
太田 綾	東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻	鈴木 彩佳	東京薬科大学 機能形態学教室
大波 壮一郎	大阪大学大学院 基礎工学研究科 脳神経工学講座 山本研究室	鈴木 博也	東北大学 大学院薬学研究科 薬物送達学分野
大平 隆史	大阪大学 大学院 生命機能研究科	高澤 知規	群馬大学 医学部 第二生理学教室
大谷 晋	名古屋大学大学院 理学研究科 生命理学専攻	瀧下 あずさ	京都大学 大学院 薬学研究科 生体機能解析学分野
岡田 英樹	福島県立医科大学 生体情報伝達研究所 生体機能研究部門	田口 良太	京都大学 大学院薬学研究科 薬品作用解析学分野
沖石 梓	九州工業大学大学院 生命体工学研究科	竹内 啓太	九州工業大学大学院 生命体工学研究科
恩田 かおる	日本大学 生物資源科学部 獣医学科	武田 湖太郎	慶應義塾大学 理工学研究科 基礎理工学専攻
粕谷 奉幸	東京薬科大学 生命科学部 生体高次機能学研究室	竹田 恒	東京大学大学院 医学系研究科 分子神経生物学分野
門脇 正和	京都大学 大学院 生命科学研究科	辰巳 由記	甲子園大学 栄養学部 細胞生物学研究室
金谷 繁明	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻	田中 啓之	大阪大学大学院 医学研究科 ポストゲノム疾患解析学講座
上山 勉	東京大学 大学院医学系研究科 脳神経医学専攻 神経内科学	田中 基樹	北海道大学 電子科学研究所 適応制御研究分野
川上 功	姫路工業大学大学院 理学研究科 生命科学専攻 生体情報学I講座	谷口 佳孝	大阪大学大学院 歯学研究科 総合機能口腔科学専攻 顎口腔病因病態制御学
北村 貴司	九州大学 大学院理学部 生物	田牧 千裕	東北大学 大学院薬学研究科 薬物送達学分野
許 儀	京都大学大学院 医学研究科 生体構造医学講座 機能微細形態学	足澤 悦子	生理学研究所 脳形態解析部門
黒谷 しのぶ	名古屋大学大学院 医学系研究科 老		

塚田 昌大	群馬大学 医学部 第二生理		経生物学教室
梅野 哲哉	新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子細胞機能学分野	松浦 良太	熊本大学 大学院 医学研究科神経分化学講座
徳永 元秀	防衛医科大学校 第一生理	松村 直人	東京大学 大学院 新領域創成科学研究科先端生命科学専攻
戸谷 洋子	筑波大学 大学院生命環境科学研究科		
中谷 洋子	東京大学 大学院理学系研究科 生物化学専攻	丸岡 久人	大阪大学 大学院医学系研究科 神経細胞医科学講座(D13)
難波 隆志	早稲田大学理工学部	丸山 拓郎	大阪大学大学院 生命機能研究科 脳神経工学講座山本研究室
新里 和恵	神戸大学 大学院医学系研究科 脳科学講座細胞・神経生理学分野	三上 義礼	東京大学大学院医学系研究科 分子神経生物学分野
西村(那須)教子	東京大学 分子細胞生物学研究所 分子情報研究分野	溝口 博之	名古屋大学 大学院医学研究科 医療薬学・附属病院薬剤部
西山 徳人	摂南大学薬学部薬理学研究室	宮道 和成	東京大学 大学院理学系研究科 生物化学専攻
二宮 賢介	産業技術総合研究所 人間系特別研究体ニューロニクスRG	三輪 秀樹	東京大学医科学研究所 基礎医科学大部門 神経ネットワーク分野
野呂 拓也	東北大学 大学院薬学研究科 薬物送達学分野	森 靖典	東京大学 分子細胞生物学研究所
萩原 明	岡崎国立共同研究機構 生理学研究所 脳形態解析部門	山崎 弘二	東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 神経科学研究部
福島 章顕	東京大学 大学院医学系研究科 分子神経生物学教室	山本 美絵	京都大学 大学院 医学研究科高次脳科学講座認知行動脳科学
福村 怜子	東京農業大学 農学研究科バイオサイエンス選考動物分子生物学研究室	山本 恵	大阪大学 理学部 生物学科
伏木 洋司	富山医科薬科大学 薬学部 分子神経生物学	山本 康子	大阪大学
藤澤 茂義	東京大学 大学院薬学系研究科 薬品作用学教室	余郷 能紀	東京大学 大学院薬学系研究科 薬品代謝化学教室
藤城 弘樹	名古屋大学大学院 医学系研究科	横溝 裕次	久留米大学 医学部生理学第一講座
藤波 義明	摂南大学薬学部薬理学研究室	吉田 盛史	京都大学 大学院理学研究科 生物物理学教室
細見 早苗	大阪大学大学院 医学系研究科 ポストゲノム疾患解析学講座	吉田 裕之	東京理科大学 大学院基礎工学研究科 生物工学専攻
堀 啓	大阪大学 大学院医学系研究科生体統合医学専攻 神経生化学	吉武 朋子	北里大学 薬学部 公衆衛生
本庄 賢	筑波大学 大学院生命環境科学研究科 構造生物科学専攻	米田 卓史	大阪市立大学 大学院医学研究科 生体機能解析学分野
前川 素子	東北大学大学院医学系研究科創生応用医学研究センター	力武 恭子	神戸大学バイオシグナル研究センター 分子薬理分野
増田 匡	名古屋市立大学 大学院医学研究科 脳神経生理学	渡辺 文寛	東京大学大学院医学系研究科 機能生物学専攻 分子神経生物学分野
増田 賢嗣	東京大学大学院医学系研究科 分子神	KIM HYEJUNG	名古屋市立大学 大学院医学研究科脳神経生理学

LI YANG 関西医科大学薬理学教室	学分野
Joo,Kyeong Min Dept.of Anatomy, Seoul Nat'l Univ. Coll.of Med.	来田 宣幸 京都大学 大学院人間・環境学研究科
Yoon Hee Chung Dept.of Anatomy, Seoul Nat'l Univ. Coll.of Med.	衣川 亜衣子 神戸大学 自然科学研究科生命科学専攻
Wu Bo 関西医科大学 薬理学教室	木野 ゆりか 名古屋市立大学 薬学部薬学科 中枢神経機能薬理学教室
Wu Yue 生理学研究所 脳形態解析部門	木下 美香 名古屋大学 大学院生命農学研究科
パネル2、システム神経科学 (89名)	木村 裕介 山形大学 大学院 理工学研究科生体センシング機能工学専攻
吾郷 由希夫 大阪大学 大学院薬学研究科 複合薬物動態学分野	木村 嘉光 大阪大学 大学院工学研究科 電子工学専攻
足立 雄哉 東京大学大学院 医学研究科 統合生理学教室	清蔭 恵美 徳島大学 医学部 情報統合医学講座 形態情報医学分野
新井 潤 九州工業大学 大学院	倉持 真人 独立行政法人産業技術総合研究所
安藤 千穂 大阪大学 大学院人間科学研究科 行動生態学講座	倉持 梨恵子 早稲田大学 人間科学研究科
五十嵐 啓 東京大学 大学院医学系研究科 細胞分子生理学教室	小島 奉子 筑波大学 人間総合科学研究科 感性認知脳科学システム脳科学分野
生田 奈穂 東北大学 大学院 国際文化研究科	児玉 崇晶 慶應義塾大学大学院 理工学研究科
池田 琢朗 東京大学 大学院医学系研究科	樹神 正光 横浜市立大学大学院総合理学研究科
石川 理子 大阪大学 健康体育部 生命機能研究科	小橋 常彦 大阪大学大学院生命機能研究科 脳神経工学講座
一條 宏 東北大学 大学院生命科学研究科 生命機能科学専攻脳情報処理研究室	小谷野 賢治 東京大学大学院 医学研究科 統合生理学教室
井上 貴雄 九州工業大学大学院生命体工学研究科	小山 真恵 東北大学 大学院生命科学研究科 脳情報処理研究室
今岡 寛之 大阪大学 大学院人間科学研究科 行動生態学講座	齋藤 さな恵 川崎医療福祉大学大学院
上江洲 香代子 徳島大学 医学部 統合生理学	佐藤 多加之 筑波大学 大学院医学研究科
牛田 貴文 名古屋大学大学院医学研究科 機能形態学講座機能組織学	実吉 綾子 上智大学大学院文学研究科心理学専攻
大木 雅文 東京大学 大学院 医学系研究科外科学専攻	地村 弘二 東京大学大学院 医学系研究科 統合生理学教室
大橋 一徳 理化学研究所 脳科学総合研究センター	鈴木 啓之 東海大学開発工学研究科生物工学専攻
大林 真知子 東京大学 医学部 統合生理学教室	園畑 素樹 九州大学 大学院医学研究院 統合生理学教室
大矢 環 横浜市立大学大学院総合理学研究科	田内 春見 名古屋市立大学 大学院医学研究科 脳神経生理学
長田 貴宏 東京大学大学院 医学研究科 統合生理学教室	高橋 宗良 慶應義塾大学 大学院理工学研究科
小野 弓絵 早稲田大学理工学研究科	高矢 知宏 慶應義塾大学 理工学研究科基礎理工学専攻
掛上 高明 慶應義塾大学システムデザイン工学科	田桑 弘之 東北大学 大学院生命科学研究科 脳情報処理研究室
加藤 剛 九州大学大学院医学研究院 統合生理学	龍野 友吾 山形大学 大学院 理工学研究科生体
鎌谷 大樹 新潟大学脳研究所 システム脳生理	

	センシング機能工学専攻	水挽 貴至	筑波大学 大学院
辰野 嘉則	東京大学 工学部 計数工学科	緑川 光春	東京大学 大学院人文社会系研究科
田辺 誠司	大阪大学 大学院基礎工学研究科 生 物工学分野		心理学研究室
田上 英嗣	慶應義塾大学 理工学研究科基礎理工 学専攻	宮川 礎	九州大学 大学院医学研究院 統合生理
戸張 靖子	千葉大学 文学部	宮崎 崇史	慶應義塾大学 理工学研究科
中越 明日香	明治鍼灸大学 脳神経外科	村上 誠祥	東京大学 大学院薬学系研究科 神経 生物物理学教室
永澤 博和	山形大学 大学院 理工学研究科生体 センシング機能工学専攻	本宮 大輔	北海道大学大学院 工学研究科量子 物理工学専攻 非線形物理工学分野
中島 環	昭和大学歯学部歯科矯正学教室	森 尊	川崎医療福祉大学大学院
中島 英樹	大阪市立大学医学部システム神経科学	師橋 雄一	独立行政法人産業技術総合研究所
長沼 朋佳	日本大学大学院医学研究科 応用シ ステム神経科学	藪下 忠親	東京医科歯科大学 医歯学総合研究 科 咬合機能制御学分野
中村 友香	名古屋市立大学 薬学部薬学科 中 枢神経機能薬理学教室	山田 俊児	名古屋大学 大学院生命農学研究科 神経内分泌統御学研究分野
中村 光晃	東京大学 大学院 工学系研究科シス テム量子工学専攻	山本 純偉	浜松医科大学 第一生理
西村 直人	京都大学 大学院 人間環境学研究科	湯本 直杉	玉川大学 大学院工学研究科 数理情報 工学研究室
西村 悠	筑波大学 システム情報工学研究科 視覚情報処理研究室	渡辺 剛史	名古屋大学 大学院生命農学研究科
番 浩史	京都大学 大学院 人間環境学研究科	Treesukosol Yada	大阪大学大学院人間科学研究科 行動生態学講座
東山 史子	信州大学 医学部脳神経外科	Norlaili Binti Mat Safri	熊本大学 大学院自然 科学研究科
平井 里実	奈良先端科学技術大学院大学 情報科 学研究科		
藤井 厚紀	岡山県立大学保健福祉学部 保健福 祉学科	パネル3、臨床・病態神経科学 (10名)	
藤田 研也	信州大学 医学部第二解剖学	佐々木 淳	富山医科薬科大学 薬学部 薬品作 用学研究室
洞口 貴弘	筑波大学 基礎医学系生理学グループ	植木 美乃	京都大学 医学研究科附属高次脳機能 総合研究センター
牧野 祐一	東京大学 大学院人文社会系研究科	杉田 明美	聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科
又吉 達	九州大学大学院医学研究院統合生理	竹本 恵子	山梨大学 (医学部臨床看護学講座)
松尾 伸幸	慶應義塾大学 理工学研究科基礎理 工学専攻	橋口 昭人	熊本大学大学院医学薬学研究部脳外科
松田 和郎	京都大学大学院医学研究科高次脳形 態学	長谷川 雄	熊本大学 大学院医学薬学研究部 先 端生命医療科学部門
松本 尚子	京都工芸繊維大学繊維学部応用生物 学科	堀江 信貴	長崎大学 脳神経外科
松本 正幸	生理学研究所	丸山 元祥	富山医科薬科大学医学部耳鼻咽喉科
水野 敬	大阪市立大学 大学院医学研究科 基礎医科学専攻システム神経科学	山本 清文	創価大学 工学部 生物工学科
		横田 祐二	福岡大学薬学部 生体機能制御
		賛助会員	
		アルファメッドサイエンス	



## 審議事項:

1. 会則の改定案について、小幡会長より説明があり、議論の後、改定案を承認し総会に諮ることを決定した(改訂案及び改訂の理由は資料3参照)。
2. NSR に関する Elsevier 社との契約が2005年末で更改の時期を迎えるが、2004年6月までに詰めておく項目があるので、交渉のための小委員会を立ち上げることが津本編集主幹より提案され、承認された(委員は小幡会長、津本庶務理事、村上広報担当理事、金子 NSR 編集委員)。
3. Neuroscience Research 優秀論文賞について  
津本忠治 NSR 編集主幹より、2002年 NSR 優秀論文賞選考委員会で推薦された以下の3篇について説明がなされた。審議の結果、推薦どおり以下の論文に NSR 優秀論文賞を授与することが承認された。  
2002年 NSR 優秀論文賞受賞論文(筆頭著者のアルファベット順)
  1. Focal stimulation of single GABAergic presynaptic boutons on the rat hippocampal neuron. Norio Akaike, Nobuya Murakami, Shutaro Katsurabayashi, Young-Ho Jin & Takayoshi Imazawa, 42, 187-195, 2002.
  2. Optimization of goal-directed movements in the cerebellum: a random walk hypothesis. Shigeru Kitazawa, 43, 289-294, 2002.
  3. A $\beta$ -degrading endopeptidase, neprilysin, in mouse brain: synaptic and axonal localization inversely correlating with A $\beta$  pathology. Shinjiro Fukami, Kaori Watanabe, Nobuhisa Iwata, Jo Haraoka, Bao Lu, Norma P. Gerard, Craig Gerard, Paul Fraser, David Westaway, Peter St. George-Hyslop & Takaomi C. Saido, 43, 39-56, 2002.
 なお、これらの論文の著者には賞状と副賞として20万円が贈られる予定。
4. Umin 或いは電子メールによる広報システム案が村上広報担当理事より説明されたが、審議の結果、執行委員会でさらに検討することになった。

## 会則の変更

## 第8条

現行 (国際理事の選任)第8条 国際脳研究機構の理事会あるいは執行委員会に属する会員を国際理事とする。

改正案(国際理事、機関誌理事の選任)第8条 国際脳研究機構および下部機構の理事会あるいは執行委員である会員を国際理事とすることができる。機関誌 Neuroscience Research の編集主幹である会員を機関誌理事とする。

## 第12条

現行 (学会長の選任)第12条 学会長は第7条に定めるパネル理事、第8条に定める国際理事、第9条に定める大会理事の投票により選任される。学会長の任期は3年とし、連続の再任は2期までとする。

改正案(学会長の選任)第12条 学会長は正会員のなかから、第7条に定めるパネル理事、第8条に定める国際理事、機関誌理事、第9条に定める大会理事の投票により選任される。学会長の任期は3年とし、連続の再任は2期までとする。

## 付則 1

現行 入会金は3000円、会費は正会員、外国人会員を7000円、学生会員を3000円とする。但し外国人会員においては、申し出により入会金及び会費を減免することができる。

改正案 入会金は3000円、会費は正会員、外国人会員を年間9000円、学生会員を年間3000円とする。ただし外国人会員においては、申し出により入会金および会費を減免することができる。

## 変更の理由

第8条 1.国際脳研究機構(IBRO)は活動の中心をその地域委員会(日本は Asian-Pacific Committee に属する)に移行させようとしており、今後、会員がその委員長等に就任された場合、必要に応じて本学会の理事に加えます。

2.機関紙編集主幹の任期は理事の任期と一致しておりませんので、今後、編集主幹が理事会に加われない場合が予想されます。機関誌発行は重要な事業で

すので編集主幹を役職指定の理事とします。

第12条 1.現在、学会長の有資格者について記載がなく、理事の互選と了解されているわけではありません。学会長は会員のなかから選任されると明記します。2.第8条の変更にもない機関誌理事を加えます。

付則

ニュース3月号に述べたように、会の運営をさらに充実するために正会員、外国人会員の会費を改定する。

## 平成15年度日本神経科学学会総会報告

日時:平成 15 年 7 月 24 日(木)18 時 19 時

会場:名古屋国際会議場(センチュリホール)A 会場

議題

- 1.小幡会長より開会にさいして挨拶があった。
- 2.津本庶務理事より会員構成の状況等が報告された(理事会資料 1-1, 1-2 参照)。
- 3.水野昇会計理事より2003年度会計の中間報告がなされた(理事会資料 2 参照)。
- 4.第26回大会の状況について西野仁雄大会長より報告がなされた。
- 5.第27回大会の準備状況について村上富士夫大会長より報告がなされた。
- 6.第28回大会の大会長は宮下保司東京大学医学系研究科教授に決定したことが津本庶務理事より報告された。
- 7.Neuroscience Researchの現況に関して津本忠治編集主幹より報告がなされた。
- 8.理事会より提案された会則の変更案について小幡会長より説明があった(理事会資料3参照)。採決の結果、出席会員の3分の2以上の賛成を得て(賛成 54、反対 1)承認された。
- 9.第3回日本神経科学学会奨励賞の選考経過について西川徹選考委員長より報告があった(受賞者名は下記)。
- 10.時実利彦記念賞の選考経過について小幡選考委員

より報告があった(受賞者名は下記)。

総会に引き続き同会場において以下の賞の授賞式、報告及び感謝状贈呈式が行われた。

- 1.時実利彦記念賞平成 15 年度受賞者  
下條 信輔博士(カリフォルニア工科大学生物学部教授)  
受賞理由:輪郭や面にかかわる新しい知覚現象の発見とその神経基盤の解明
- 2.日本神経科学学会奨励賞平成 15 年度受賞者(50 音順)  
筒井 健一郎博士  
(ケンブリッジ大学解剖学教室 研究員)  
研究課題「頭頂連合野における三次元視覚情報処理機構の解明」  
納家 勇治博士  
(東京大学大学院医学系研究科統合生理学教室 助手)  
研究課題「霊長類下部側頭葉における長期連合記憶の双方向性情報処理」
- 3.第2回(2002年)Neuroscience Research 優秀論文賞を受賞した3論文が発表された(理事会報告参照)
- 4.神経科学研究助成等で学会に多大の貢献を行った成茂栄一氏に感謝状を贈呈した。

## 第26回日本神経科学大会のご報告

第26回日本神経科学大会大会長  
名古屋市立大学大学院  
医学研究科脳神経生理学  
西野仁雄

標記大会は、2003年7月23日(水)~25日(金)の3日間、名古屋国際会議場で開催され、皆様のご支援・ご協力をいただき、無事終了致しました。発表演題数は、一般演題 993 題(口演 145 題、ポスター 848 題)、特別講演 6 題、シンポジウム 34 主題 174 題、モーニングレクチャー 8 題、ランチョンセミナー 8 主題 10 題、合計 1191 題でした。参加者数は、事前登録者が 1308 名(会員 849 名、非会員 68 名、

学生 391 名)、当日登録者が 1016 名(会員 436 名、非会員 197 名、学生 383 名)で、総登録者数は 2324 名(会員 1285 名、非会員 265 名、学生 774 名)でありました。非会員で登録を免除した方を含めると、参加者総数は 2400 名に達します。参加者の 1/3 が学生ですので、若い神経科学者が本学会活動を支えていることとなります。このことは、本研究分野へ参画される研究者が徐々に増えることが予想され、大変喜ばしいことです。

演題登録及び英文抄録投稿が例年より約 2 カ月早まりましたので、演題登録数が下がるのではないかと、当初心配いたしました。UMIN のサイトを利用していただくとともに、前々回、前回と蓄積されている学会運営のノウハウをいろいろとお教えいただきましたので、これらをスムーズに処理する事ができました。関係各位に心からお礼申し上げます。時代のニーズである託児所とインターネットコーナーは、会期中の大いにご利用いただきましたが、AED(automatic external defibrillator)コーナーは、幸いにも利用することなく、事なきを得ました。

本大会では、学会のより一層の国際化を計ることをめざして、1)特別講演とシンポジウムは英語での発表とする。2)一般演題もスライドやポスター内容を英文で作成する。3)和文抄録を作成しないで、英文抄録(Neurosci Res Suppl)を当日に配布する。4)プログラム集の演題名は英文と和文の併記とする。5)アジアの若い研究者を対象に travel award を設ける、等に取り組みました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

大会翌日の 26 日(土)には、「脳を育む」と題したサテライト市民公開講座を開催いたしました。300 名を超える参加者があり、こちらの方も好評下に終了することができました。

最後に、ご参加くださいました皆様、プログラム委員・組織委員の方々、また、大会の運営に多大のご支援・ご尽力をくださいました団体、企業と関係各位の皆様に、この場を借りて、心からお礼申し上げます。

## Neuro2004

### 第 27 回日本神経科学大会・第 47 回日本神経化学学会大会合同大会のご案内

第 27 回日本神経科学大会・第 47 回日本神経化学学会大会合同大会(Neuro2004)

会期:2004 年 9 月 21 日(火)・22 日(水)・23 日(木)

会場:グランキューブ大阪(大阪国際会議場)

〒530-0005 大阪市北区中之島 5 丁目 3 番 51 号

大会長 村上富士夫(日本神経科学大会)

遠山 正彌(日本神経化学学会大会)

大会事務局:Neuro2004 大会事務局

〒541-0047 大阪市中央区淡路町 3-6-13

(コングレビルディング 株式会社コングレ内)

e-mail:neuro2004@congre.co.jp

FAX:06-6229-2556

第 27 回神経科学大会 Neuro2004 は、神経化学会との合同大会で開催します。概略は以下の要領で行いたいと考えております。現在、プログラム委員会、実行委員会が中心となり、準備作業に入っております。

・シンポジウムを広く公募致します(20 - 30 題)。

シンポジウムの発表は原則として英語で行います。各シンポジウムは 2 時間 30 分を予定しております。応募される方は、シンポジウムの

1)タイトル

2)趣旨と意義

3)オーガナイザー(2名)(本学会または神経化学会会員である必要があります)

4)予定しているシンポジストを A 4 用紙 1 枚におまめの上、e-mail、fax のいずれかで事務局「公募シンポジウム」宛までお送り下さい。

受付期間は 2003 年 12 月 25 日までとさせていただきます(期日まで必着)。

応募いただいたシンポジウムをプログラム委員会で検討の上、内容が類似の場合は統合させていただくことがあること、また多数の応募をいただいた場合は、プログラム委員会による検討の結果、やむを

得ずお断りせざるを得ないことも考えられますので、採択に関しましては、プログラム委員会に一任下さいませようお願いいたします。

シンポジウムの採否・統合につきましては、2004年1月中旬にご通知いたします。その結果を受けて、演題登録(全シンポジストの英文抄録)を受付期間に行ってください。

・一般演題は口演とポスター発表の両方を予定しておりますが、募集の詳細については、次報でお知らせいたします。

## エモーショナル・ブレイン 情動の脳科学

ジョセフ・ルドゥー著 松本元、川村光毅、  
小幡邦彦、石塚典生、湯浅茂樹訳

富山医科薬科大学・医学部・第二生理学  
小野武年

著者のルドゥー教授が書いておられるように、多くの科学者が生涯をかけて「情動とは何か」を定義しようと試みたが、未だに成功していない。それほど情動とは捉えどころがなく、脳内メカニズムの科学的研究も難しい。しかし、ルドゥー教授は、第一にヒトと動物に共通する「情動」の脳内システムがあること、第二にそれは無意識的過程に基づいていることなどから「情動」を神経系の生物学的機能とみなし、従来の哲学的・心理学的研究の束縛から逃れて「情動」の科学的な解明に挑戦している。その一つとして、「恐怖条件付け」が「個体の生存」に根ざした八工からヒトまで認められる普遍的な生物学的な脳機能であり、それが半自動的に無意識的に脳内で起こることを考察している。同教授は、1970年代後半からラットで「恐怖条件付け」の脳内機構を神経解剖学的ならびに神経生理学的に研究し、視床から側頭葉内側部の扁桃体に至る経路が無意識的に起こる脳機能であることを初めて明らかにした。近年では、情動は、コンピュータサイエンスの分野でも重視され、とくに、本書の翻訳者である故松本先生は自ら開発を進めておられた脳型コンピュータの原

理にも取り入れられている。本書の前半は、ルドゥー教授の研究成果を、従来のパブプロフをはじめとする歴史的研究と比較しながら興味深くまとめられている。本書の後半部では、ルドゥー教授が解明した動物的な(無意識的な)「情動」の脳内過程が、恐怖症、不安発作、強迫神経症、および外傷後ストレス障害(PTSD)などのヒトの精神病理の発症に深く関わっていることが提唱されている。読者はわれわれの行動や意識が如何に無意識的な脳内過程に強くコントロールされているかに気づかれるであろう。ルドゥー教授は、さらにわれわれの「意識的な感情」について考察し、この無意識的な情動システムが意識を担う前頭葉を中心とした作動記憶システムにアクセスした場合にのみ、意識的に「感情」として認知される現象であるとしている。このような情動の二重構造は、認知心理学から解析可能であると考えられ、認知心理学者の興味深い研究対象となるであろう。

最後に、ルドゥー教授の研究手法は、動物、とくにラットを用いて情動の脳内メカニズムを解明しようとしておられるが、ある意味では自律神経反応と行動という生体の反応を基盤に脳活動との相関を解明するという新行動主義と言えるのかもしれない。若い脳科学者は本書により、ルドゥー教授は、若き時代に、1981年、「大脳半球の機能分化に関する研究」によりノーベル生理学医学賞を受賞された故スペリー教授の高弟で、分離脳研究のパイオニアの一人であったガザニガ博士に師事し、如何にして「情動」の科学的な研究手法にたどり着いたのかを知るのも一読に値するであろう。私が最初にルドゥー教授を個人的に知る機会を得たのは、同教授が Handbook of Physiology, Vol. V, Chapter 10: Emotion (1987)の執筆中に私達の論文のことで問い合わせがあったときだと記憶している。その後、日本を含め多くの国際会議でお会いし、友情を深めてきた。とくに、1998年リーノ(カリフォルニア)での恩師ガザニガ教授と2人の主催による国際会議に招待された折、故松本先生の進めておられた本書翻訳のことや、ガザニガ教授の厳しい指導が本書執筆の原動力となっていることなどをお聞きした。帰国後

そのことを故松本先生にお伝えしたところ、それ以来翻訳の進み具合を絶えず気にしておられ、昨年(2002年)末に至るまで、文字どおり心血を注がれてこの翻訳を完成されたのである。以上のように、本書はスペリー、ガザニガの実験心理学の流れを受け継ぎ、ルドゥー教授の30年にわたる情動の脳科学的

研究開始の動機やその成果、意義など豊富な人的・知的交流に基づいて見事に書かれている。哲学、心理学、教育学、生物学、認知科学、コンピュータ工学、神経科学、臨床医学などすべての分野の研究者に是非一読をおすすめしたい。

## INFORMATION

### シンポジウム・研究会



ノバルティス財団

公開シンポジウムのご案内

Pathological Pain: from  
Molecular to Clinical Aspects  
「病態痛:分子から臨床まで」

(財)ノバルティス科学振興財団  
理事長 金子 章道

拝啓 盛夏の候 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は当財団の事業に対し格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたびノバルティス財団(英国)との共催にて、「病態痛:分子から臨床まで」をテーマに、来る10月3日(金)9時30分より新宿安田生命ホールにおいて、公開シンポジウムを開催することになりましたのでご案内申し上げます。

より多くの関係者の方々にご案内いただければ幸甚に存じます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

敬具

お問い合わせは

〒106-0032

東京都港区六本木7-8-4 銀嶺ビル5F

TEL 03-5414-5761 FAX 03-3796-8271

E-mail yfnova@dream.com

Pathological Pain: from Molecular to Clinical Aspects 「病態痛:分子から臨床まで」

Friday 3 October 2003

Yasuda Seimei Hall, Tokyo

9:30 Opening Remarks (Novartis Foundation)

9:40 Chairman's Introduction

Takao Kumazawa

9:50 Mechanisms of bone cancer pain (Chair: Kuraishi)

Mantyh PW (Minnesota, USA)

「骨癌痛のメカニズム」

10:40 Abnormal discharges and neuropathic pain (Chair: Oh)

Devor M (Jerusalem, Israel)

「異常放電とニューロパシー痛」

11:30 Lunch

12:30 Neurotrophic factors and neuropathic pain (Chair: Zhang)

McMahon SB (London, UK)

「神経栄養因子とニューロパシー痛」

13:20 Sympathetic involvement in pathological pain (Chair: Belmonte)

Perl ER (Chapel Hill, USA)

「病態痛における交感神経関与」

14:10 Break

14:25 Imaging brain pathophysiology of chronic pain (Chair: Bevan)

Apkarian VA (Chicago, USA)

「慢性痛の脳イメージング」

15:15 Mechanistic and clinical aspects of complex regional pain syndrome (Chair: Reeh)

Baron R (Kiel, Germany)

「CRPSのメカニズムと臨床」

16:05 Closing Remarks

Yoshimura

\* Chairpersons are tentative.



## 2003年 理化学研究所 科学講演会開催のお知らせ

理化学研究所では、最先端の研究を一般の方々に広く知っていただくため、科学講演会を毎年開催しています。本年度は、「なるほど！脳の中身が見えてきた！」と題し、脳科学について第一線の研究者が最新の話題を分かりやすく紹介します。下記ご覧の上、奮ってご来場ください。

記

- 1) 日時:2003年10月30日(木)14:00 - 17:20
- 2) 会場:東京国際フォーラム ホールC(東京都千代田区丸の内3-5-1)  
JR・地下鉄 有楽町駅 徒歩1分
- 3) 入場:無料
- 4) 講演:理化学研究所 脳科学総合研究センター  
RIKEN-MIT 脳科学研究センター長 利根川 進  
「学習と記憶の機構」  
特別顧問 伊藤 正男  
「脳の設計図は果たして読めるのか  
- 脳科学の夢」  
センター長 甘利 俊一  
「21世紀の脳科学」
- 5) 参加事前申し込み:不要
- 6) 問合せ先:理化学研究所  
広報室 Tel.048-467-9954  
<http://www.riken.go.jp>  
[koho@postman.riken.go.jp](mailto:koho@postman.riken.go.jp)



## Social Mixer for Japanese Neuroscientists at New Orleans

来る2003年11月8日から12日までNew Orleansにて開かれる北米神経科学会に於いて、日本人研究者並びに日本の神経科学に興味のある世界の研究者達のための懇親会を開きます。今回は、堅苦しい挨拶や話は抜きで、軽食を楽

しんでいただきます。また、日本人に限らず、友人の方などを連れていただくのも歓迎です。予約は必要ありません。食事は無料ですが、飲料は有料です。

それに伴い、話題提供のためにポスターを24題募集いたします。特別な物を用意していただく必要はなく、神経科学会でお使いの物で十分です。

Sheraton New Orleans

Room: Bayside AB

Date: Tuesday, November 11, 2003

Time: 17:30 - 19:30

詳しくは、世話人、林 康紀までお問い合わせ下さい(電子メールをお使いの際は英語でお願いいたします)。

林 康紀 Yasunori Hayashi

RIKEN-MIT Neuroscience Research Center  
The Picower Center for Learning and Memory  
Department of Brain and Cognitive Sciences  
Massachusetts Institute of Technology E18-270  
77 Massachusetts Avenue Cambridge MA  
02139 U.S.A.

Tel 617-452-2662/Fax 617-452-2573

E-Mail : [yhayashi@mit.edu](mailto:yhayashi@mit.edu)



## 大阪大学大学院生命機能研究科 21世紀COEプログラム 「生体システムのダイナミクス」 シンポジウム (東京)

日時:2003年11月15日(土) 10:00 ~ 17:00

場所:経団連ホール (東京都千代田区大手町1-9-4 経団連会館14F)にて。(申込・参加費不要)

詳細は、下記ホームページ参照

研究科 HP <http://www.fbs.osaka-u.ac.jp/>

シンポジウム HP <http://www.fbs.osaka-u.ac.jp/jp/symposium/COE2003.html>

プログラム

「ナノバイオロジーから高次生命機能へ」

10:00-11:00 大阪大学大学院生命機能研究科入試・カリキュラム説明

11:00-11:30 柳田 敏雄「しなやかな生体分子機械のしくみを1分子ナノ計測で読む」

11:30-12:00 難波 啓一「生体超分子ナノマシ

ンの自己構築と動作のしくみ」

13:30-14:00 木下 修一「昆虫の光り輝く翅に  
隠された驚くべきナノ構造」

14:00-14:30 村上富士夫「脳の発生と動き回る  
神経細胞」

14:30-15:00 長田 重一「細胞の死」

15:20-15:50 近藤 壽人「発生研究の新時代:胚  
の脳の誕生から」

15:50-16:20 藤田 一郎「心を司る脳のはたら  
きとつくり」

16:20-16:50 平野 俊夫「インターロイキン6  
シグナル異常と自己免疫病」

お問い合わせ 事務局 宮下

miyashita@fbs.osaka-u.ac.jp TEL:06-6879-7967

## 神奈川科学技術アカデミー



### 教育講座

#### 平成15年度第III期 受講生募集

基礎から学ぶ分子細胞生物学コース  
～細胞の分子構造機能から病態まで～

カリキュラム協力 東京大学医科学研究所  
教授 医学博士 新井賢一

コースの特色・ねらい

IT関連、キャピタル、商社、保険会社とい  
った様々な企業の方々に、これからライフサイ  
エンス分野に参入しようとしている方を対象に、  
生命の成り立ちと営みを細胞レベルにおいて総  
合的に理解し、生化学・分子生物学から病気の  
基礎知識までを短期間で身に付けられるカリ  
キュラムです。

講義日 プレコース・・・ 11/21

本コース・・・ 11/28 12/2 12/9 12/17 計4  
日間 合計5日間

主なカリキュラム内容

[プレコース]細胞から個体(発生から個体へ)/分  
子生物学と遺伝学/体の調節制御、病気概念  
(神経、免疫、内分泌)/環境とエコシステム  
[本コース]生物学(生物とは何か)/細胞の微細構  
造と機能(形態学)/細胞の分子構造と機能(分子  
の機械としてのタンパク質)/細胞レベルの制御  
。「(生化学とエネルギー代謝、シグナル伝達)/  
遺伝子とゲノム(ゲノム、複製、組換え、翻訳)/  
システム情報。「(遺伝とゲノム、ゲノム診断)/  
疾患とその治療(生活習慣病)/先天性代謝異常  
(遺伝子病)/先端医療と社会/見学

講義場所 東京大学医科学研究所(東京都港  
区白金台)

申込締切日 平成15年10月30日(木)

募集人員 30名

受講料

## 群馬大学国際シンポジウム



### Molecular Mechanisms of Vesicle Trafficking and Membrane Fusion

会場:群馬会館(群馬県前橋市:群馬県庁前)

日時:2003年11月21日22日

参加費:無料

ポスター発表募集中

(詳細は [http://www.gunma-u.ac.jp/  
information/shinpo1.html](http://www.gunma-u.ac.jp/information/shinpo1.html) をご覧下さい)

11月21日:Membrane fusion

Erwin Neher(Germany)

Richard W. Tsien(USA)

Alan D. Grinnell(USA)

高橋 智幸(東京大)

河西 春郎(生理研)

高橋 正身(北里大)

11月22日:Vesicle Trafficking

Timothy A. Ryan(USA)

Wolfhard Almers(USA)

William J. Betz(USA)

黒見 坦(群馬大)

泉 哲郎(群馬大)

柴田 宏(群馬大)

事務局:群馬大学医学部行動生理学教室 黒見 坦

電話:027-220-8041

email:kuromi@med.gunma-u.ac.jp

\* 1日単位の受講は応募者数が定員を超えた場合、全コース受講される方を優先し選考します。

\* やむを得ない事情により、日程・内容等の変更をする場合があります。

\* 受講料の中には消費税が含まれています。

\* 施設見学については、各企業・研究機関のご厚意・ご協力により実施しております。また、企業の施設については、同業者の方の見学が制限される場合がありますので、ご了承ください。

\* KAST 法人賛助会員は、登録されている事業所単位です。

\* 神奈川県内中小企業とは、本社または事業所が神奈川県内にあり、資本金が3億円以下または企業全体の従業員が300人以下である企業をさします。

問い合わせ先:

財団法人 神奈川科学技術アカデミー 教育交流部 教育研修課

〒 213-0012 神奈川県川崎市高津区坂戸 3-2-1

KSP 西棟 6階

Tel 044(819)2033 Fax 044(819)2097 E-mail: ed@kast.or.jp <http://home.ksp.or.jp/kast/>



未来開拓学術推進事業研究  
プロジェクト国際シンポジウム  
International Symposium  
on "Development and  
Regeneration of the  
Nervous System

平成 15 年 12 月 5 日(金)13:00 ~ 6 日(土)13:00  
岡崎コンファレンスセンター (愛知県岡崎市明大寺町)

名鉄東岡崎駅より徒歩 10 分

参加費 無料 (懇親会費:5,000 円)

Symposists

Alison K. Hall (Department of Neurosciences  
CWRU School of Medicine / U.S.A.)

Title: Activins and BMPs in neural  
differentiation

Jeffrey D. Kocsis (Yale University School of  
Medicine / U.S.A.)

Title: Cell transplantation strategies to  
repair to the injured CNS

Mark F. Mehler (Albert Einstein College of  
Medicine / U.S.A.)

Title: Mechanisms regulating neuronal and  
glial fate decisions from regional neural stem  
and progenitor cells of the developing  
mammalian forebrain

Robert H. Miller (Case Western Reserve  
University / U.S.A.)

Title: Spatial regulation of oligodendrocyte  
development

Charles D. Stiles (Harvard Medical School /  
U.S.A.)

Title: Cellular and Genetic Origins of  
Oligodendrocytes

伊藤 康一 (財団法人 東京都医学研究機構)

Title: Molecular profiling during  
differentiation of oligodendrocytes in vitro

小野 勝彦 (岡崎国立共同研究機構 生理学  
研究所)

Title: OPC development in the netrin KO  
mouse: a descriptive study

新郷 哲郎 (岡山大学大学院 医歯学総合研究科)

Title: Adult neurogenesis in the mammalian  
forebrain

鈴木 諭 (九州大学大学院 医学研究院)

Title: Multiple cell populations in the early  
postnatal subventricular zone take distinct  
migratory pathways: a dynamic study of glial  
and neuronal progenitor migration.

竹林 浩秀 (岡崎国立共同研究機構 生理学  
研究所)

Title: To be announced

仲嶋 一範 (慶応大学 医学部)

Title: Neuronal Migration in the Cerebral  
Cortical Development

八田 稔久 (島根医科大学 医学部)

Title: Role of gp130 signal in the  
development of cerebral cortex

三浦 正幸 (東京大学 薬学部)

Title: Genetic dissection of neural cell death  
and degeneration pathway in Drosophila

(敬称略)

主催者:小野 勝彦

岡崎国立共同研究機構・生理学研究所

Local Host: 池田 一裕

岡崎国立共同研究機構・生理学研究所

連絡先: 岡崎国立共同研究機構・生理学研究所

窓口:北山 理英 (秘書)

Tel:0564-59-5249 Fax: 0564-59-5247

Email: trie@nips.ac.jp

http://www.nips.ac.jp/ninfo/sympo.html



## 千里ライフサイエンスセミナー ブレインサイエンスシリーズ 第16回「アルツハイマー病 研究の最前線と治療への挑戦」

日時:平成16年1月16日(金)10:00-17:00

場所:千里ライフサイエンスセンタービル

5階ライフホール

主催:財団法人千里ライフサイエンス振興財団

着眼点:アルツハイマー病研究は原因究明に向けこの10年間で飛躍的に進展した。原因遺伝子の特定から発症のしくみが解き明かされつつあり、さらに治療へとつながる応用研究も行われるに至っている。本セミナーでは特に話題性のある研究にクローズアップしてアルツハイマー病の本質に迫る。

コーディネーター:

奈良先端科学技術大学院大学 助教授 今泉 和則

大阪大学大学院医学系研究科 教授 遠山 正彌

プログラム:

1. はじめに 今泉 和則

2. A 代謝とアルツハイマー病

理化学研究所 脳科学総合研究センター 神経蛋白制御研究チーム チームリーダー 西道 隆臣

3. A 凝集開始の分子基盤

国立長寿医療研究センター 痴呆疾患研究部 研究部長 柳澤 勝彦

4. セクレターゼの形成と機能

東京大学大学院薬学系研究科 臨床薬学教室 教授 岩坪 威

5. 小胞体ストレスとアルツハイマー病

奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究部 助教授 今泉 和則

6. ミクログリアとアルツハイマー病

京都大学大学院医学系研究科 臨床神経学 助教授

下濱 俊

7. 脳の老化とアルツハイマー病発症機構 タウ研究からのアプローチ

理化学研究所 脳科学総合研究センター アルツハイマー病研究チーム チームリーダー 高島 明彦

8. おわりに 遠山 正彌

参加費:会員(大学・官公庁職員、当財団の賛助会員)3,000円、非会員5,000円、学生1,000円  
定員:300名

申込方法:氏名、〒所在地、勤務先、所属、電話およびFAX番号を明記の上、郵便、FAXまたはE-mailで下記宛にお申込み下さい。事務局より受付の通知を返送いたしますので、そこに記載した振込先口座に参加費をお振込み下さい。入金を確認後、通常2週間以内に領収書兼参加証をお届けいたします。

申込先:(財)千里ライフサイエンス振興財団 ブレインサイエンス係

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8階

TEL:06-6873-2001 FAX:06-6873-2002

E-mail:tnb-lsf@senri-lc.co.jp

(注:lsfは「エルエスエフ」、lcは「エルシー」)

URL:http://www.senri-lc.co.jp

申込締切:定員になり次第締め切ります。

## 研究助成



### 「JR東日本 研究開発コンペティション」共同研究提案募集

JR東日本は、『異分野との融合による駅のフロンティア』をコンセプトに、研究開発コンペティションを実施し、斬新で、実現性のある研究提案を募集します。

応募対象テーマ(1):快適・安心な駅の創造に資する研究開発 (2):環境負荷の小さな駅実現に資する研究開発 (3):スムーズ・利便性の高い駅創造に資する研究開発 (4):先端科学技術を応用し、新たな駅機能の創造に資する研究開発((1)~(3)を含む全ての領域)

共同研究:研究提案1件あたりの上限を1,000万円程度とし、総額は3,000万円程度を予定しています。

応募締め切り:2003年10月10日(金) < 締切日消印有効 >

詳細と応募書類についてはホームページをご覧ください。

問合せ先:JR東日本研究開発コンペティション事務局(TEL: 03-3277-4513、E-mail:jr-compe@mri.co.jp、URL:http://www.jreast.co.jp/development/compe/)



### (財)ブレインサイエンス振興財団 平成15年度事業候補者募集

(財)ブレインサイエンス振興財団は下記のように平成15年度事業の候補者を募集しています。詳細は同財団ホームページ(URL <http://homepage2.nifty.com/bsf/>)をご覧ください。

推薦を必要とする事業について、日本神経科学学会の推薦を希望されるかたは、所定の用紙に必要な事項を記入の上、各賞・各助成の財団締めりの1カ月前までに下記宛お送りください。

会長 小幡 邦彦

#### 【連絡先】

〒176-0005 練馬旭丘郵便局留め  
日本神経科学学会 山根慶子  
jnss@mb.newweb.ne.jp

\*\*\*\*\*

#### 第18回 塚原仲晃記念賞受賞候補者推薦依頼

##### 1. 趣旨

生命科学の分野において優れた独創的研究を行っている45歳以下の研究者(国内外を問わない)に対して塚原仲晃記念賞を贈呈します。

##### 2. 褒賞金

贈呈件数は原則として1件とし、賞牌ならびに副賞(100万円)を贈呈します。

##### 3. 推薦締め切り 平成15年11月27日(木)

##### 4. 推薦者((1)又は(2)のいずれか)

(1) 関係各学会代表責任者または所属機関の長。

(2) 当財団の理事及び評議員。

(当財団の理事及び評議員からの推薦は、1推薦者から1件に限ります。)

##### 5. 推薦方法

所定の用紙に必要な事項を記入し、当財団に提出してください。

(推薦用紙は80円切手1枚を同封のうえ、塚原仲晃記念賞推薦用紙希望を明記し、封書で財団あてご請求下さい。返信用封筒は不要。

推薦用紙は当財団のHPからも取り出せます。

URL <http://homepage2.nifty.com/bsf/>)

##### 6. 書類提出先および連絡先(以下の事業についても同じ)

財団法人 ブレインサイエンス振興財団

〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-6-20

電話(03)3273-2565(直通)

#### 第18回 研究助成候補者募集

##### 1. 趣旨

ブレインサイエンスの広い分野における研究に対して助成を行います。特に、下記の各項について、脳のメカニズムを解明する独創的な研究計画の助成に重点をおきます。

研究分野は実験研究のみならず、理論、モデリング研究をも含みます。

- (1)脳細胞の働き (2)脳の感覚、認知、運動、情動、記憶・学習、睡眠、意識の機能 (3)脳の制御の原理と機構 (4)脳神経系疾患の病理 (5)脳の老化 (6)脳神経の発生、分化、発達 (7)物理学から脳へのアプローチ

##### 2. 研究助成額

助成額は1件100万円、助成件数は8~10件

##### 3. 応募締め切り 平成15年11月27日(木)

##### 4. 応募用紙

80円切手1枚を同封のうえ、研究助成応募用紙希望を明記し、封書で財団事務局までご請求下さい。返信用封筒は不要

当財団のHPからも取り出せます。URL <http://homepage2.nifty.com/bsf/>

#### 5. 応募方法

所定の用紙に必要事項を記入し、当財団に提出してください。

(研究についての問い合わせ可能な所属長名を明記してください。)

### 第17回 海外派遣研究助成候補者募集

#### 1. 趣旨

我が国におけるブレインサイエンスの研究の促進を図るため、国際学会、シンポジウム等への参加、あるいは短期間(6ヶ月以内)の共同研究のための研究者の海外派遣を助成します。但し、平成16年4月から平成17年3月の間に出発できるものに限りま。

#### 2. 助成予定額

1件あたりの助成額は往復の航空運賃を主とし、30万円までを限度として必要額を若干件数助成します。

#### 3. 応募締切日 平成16年1月16日(金)

#### 4. 応募用紙

80円切手1枚を同封のうえ派遣研究助成応募用紙希望を明記し、封書で財団事務局まで送付いただき次第、お返し応募用紙を送付します。(返信用封筒は不要)

(応募用紙は当財団のHPからも取り出せます。)

URL <http://homepage2.nifty.com/bsf/>

#### 5. 応募方法

所定の用紙に必要事項を記入し、当財団に提出してください。

学会、シンポジウム等の問い合わせ可能な所属長の名前を明記してください。

受入先の承諾書を添付してください。

(学会、シンポジウム等参加の場合は参加証明書または招待状の写し。短期の共同研究の場合は受入機関または共同研究者の手紙の写し。)

### 第17回 海外研究者招聘助成候補者募集

#### 1. 趣旨

ブレインサイエンス研究分野において、独創的テーマに意欲的に取り組んでいる

外国人研究者の短期間(3ヶ月以内)の招聘を助成します。ただし、平成16年4月1日から平成17年3月31日の間に招聘するものとします。また、助成金は招聘する受入責任者に交付します。

#### 2. 招聘助成予定額

1件あたりの助成額は往復の航空運賃を主とし、30万円までを限度として必要額を若干件数助成します。

#### 3. 推薦締切日 平成16年1月16日(金)

#### 4. 推薦者((1)又は(2)のいずれか)

- (1) 関係学会代表責任者または所属機関の長
- (2) 当財団の理事及び評議員。

(当財団の理事及び評議員からの推薦は、1推薦者から1件に限ります。)

#### 5. 推薦方法

所定の用紙に必要事項を記入し、当財団に提出してください。

(80円切手1枚を同封のうえ、招聘助成推薦用紙希望を明記し、封書で財団宛送付いただき次第、お返し推薦用紙を送付します。返信用封筒は不要)

(又、推薦用紙は当財団HPからも取り出せます。)

URL <http://homepage2.nifty.com/bsf/>



## 平成15年度「安藤百福賞」 応募作の募集について

主催 / 食創会・安藤財団

後援 / 日本経済新聞社

#### 1. 受賞対象者

食品分野における独創的な基礎研究、食品開発、およびベンチャーを対象とします。なお、叙勲、褒章ならびに他に顕著な賞を受けられた方は原則として対象外とします。

#### 2. 対象分野

表彰は、次の3部門に優秀賞を、特に優秀と認められた方に大賞を贈呈します。

1)基礎研究部門 食品の基礎科学に関する独創的かつ将来性豊かな学術的研究を対象とします。

2)食品開発部門 独創的な技術開発により新しい市場を創造した商品、あるいは新しい業態を創造した技術を対象とします。

3)ベンチャー部門 独創的かつ将来性豊かな食品加工技術や流通システムなどを開発、起業したベンチャーを対象とします。

### 3. 選考基準

1)驚きの気持ちを引き起こすような斬新で独創的なもの。

2)特許申請、論文著書等、知的財産として価値があり、生産性が高いもの。

3)科学技術の世界や、社会一般へ強い影響力のあるもの。

4)実績、知名度が低くても、将来性を期待できるもの。

### 4. 選考

各部門ごとに審査委員会を設け、厳正な予備選考を行った上、役員会にて大賞・優秀賞を選考します。選考結果は、文書により関係者にご通知いたします。選考の結果、該当者がいないこともあります。

### 5. 賞の種類

大賞 1点 賞状及び副賞賞金 1,000万円

優秀賞3点 賞状及び副賞賞金 200万円(各部門で1点)

6. 応募締め切り 平成 15年 10月末日

7. 応募要綱・応募用紙等について

本人の申請もしくは関係機関、学識経験者の推薦によりご応募下さい。

安藤スポーツ・食文化振興財団のホームページ ([www.ando-zaidan.jp](http://www.ando-zaidan.jp))にて閲覧、ダウンロードいただけます。

8 応募書類の送付・問い合わせ先

財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団

『食創会』事務局

〒563-0041 大阪府池田市満寿美町8番25号

電話 072-752-4335 FAX 072-752-1288

## 公 募



### A postdoctoral Fellowship

Louisiana State University (LSU) Neuroscience center (New Orleans) Postdoctoral position(s) available at LSU New Orleans to study the molecular mechanisms of synaptic plasticity in central nervous system. We use a combination of molecular/biochemical, immunocytochemical and electrophysiological tools to explore molecular mechanisms responsible for different forms of synaptic plasticity (for example, LTP or LTD) elicited by different patterns of activity (high frequency stimulation or low frequency stimulation etc). Research will focus on NMDA receptor phosphorylation, trafficking and role of protein-protein interaction involved in plasticity induction and their role in signaling mechanisms that link electrical activity to cytoplasmic events and to nuclear signaling in inducing CREB mediated gene transcription. Candidates with one of the above expertise or the potential to acquire them are welcome to send resume and contact information to: Dr. Hugh Xia: [houhui@stanford.edu](mailto:houhui@stanford.edu)

## その他



### 神経科学ニュース、 神経科学学会ウェブサイトへの 記事の掲載について

学会への提言、研究雑感、学会見聞録、書評等神経科学の発展につながるものであればどのようなものでも結構ですでお送りください。

1. 原稿は電子版のみを受け付けています。原稿は電子メール添付ファイルでお送り下さい。

(a) 受付可能なファイル形式は Word(2001 以前)、EG Word(11 以前)、Kacis Writer です。それ以外のものも或る程度対応可能ですが、事前にご相談ください。また作成に用いたアプリケーションに関わらず HTML、rtf ファイルは受付可能です。テキストファイルも可ですが、その場合メール本文に埋め込んでください。

(b) 画像ファイルは PICT、JPEG または TIFF ファイルで、可能な限り圧縮して本文とは別のファイルでお送りください。

2. 校正は行いません(お送りいただいたファイルをそのまま利用します)ので、誤りの無いことをお確かめの上、原稿をお送り下さい。

3. ニュースへの掲載は 1 回のみとさせていただきます。



### 神経科学ニュース電子版 パスワード

本ニュースの電子版のダウンロードには Umin のパスワードが必要です。皆様方の会員固有の user ID、パスワードを入力してください。半角で、大文字小文字を区別して、入力してください。

## 編集後記

今年の夏は1993年以来の冷夏ということでは不完全なまま終わってしまったという印象ですが、皆様はいかがお過ごしでしたでしょうか。私はドイツとスイスに行く機会がありましたが、御存じのようにヨーロッパは記録的な猛暑で、アルプスより北での熱帯夜などというかつてない経験が強いられました。さて、7月23-25日に第26回神経科学大会が西野大会長のもと名古屋で開催され、成功裏のうちに終了しました。外国人研究者をはじめ、多くの参加者を集め、活発でハイレベルな学会になりました。特に、今回から取り入れられた国際化への取り組みは重要で、他の国内学会にも大きな影響を与えるものと思われます。来年は村上大会長のもと、大阪で開催することになりますが、本号にその第1報が載っており、1年先に向けて早くも準備が始まっています。来年は神経化学学会との共同開催であり、今年以上の規模になることが予想されます。現在シンポジウムを公募中です。会員の皆様の積極的な提案と御協力をお願いいたします。(狩野記)

発行：広報委員会  
村上富士夫（委員長）  
狩野方伸（ニュース編集小委員会委員長）  
蔵田 潔（電子化推進小委員会委員長）  
白尾智明（ホームページ担当小委員会委員長）